

# 環境記者活躍中

## 平塚二丁目「花いっぱい運動」

環境記者の志賀さんは平塚二丁目の「花いっぱい運動」に参加しました。

「底面貯水型水やり不要ECOプランター」が道路に面した玄関先などに置かれました。

このプランターは二段式になっており、上段は普通のプランターと同じですが、下段に貯水槽があり、一週間に一回程度の雨が降れば水やりは不要だそうです。またプランターの素材は自然素材であるコーヒー豆を使用し、底面から空気を取り入れ、植物の生育を助けます。また最終的には燃えるごみとして焼却処理可能で、CO2の排出削減が可能なECOプランターとのことでした。



屋上緑化（平塚二丁目町会の会館屋上）

乾燥に強く、雨水だけでも育つ常緑キリンソウを植えました。常緑キリンソウは一年中緑色の葉をつけるため、屋上緑化、壁面緑化、道路緑化などに役立っています。常緑キリンソウは江戸時代には飢饉に備え、若葉を塩茹でして乾燥させ、保存食に使っていたともいわれています。



平成21年11月下旬



平成22年3月中旬

ガーデニング 専門家による実技講習会を実施しました。

3回目の講習会の模様をご紹介します。今回はハンギングプランターの植栽で、今では町会会館前をきれいに飾ってくれています。



講習会の模様と作品

大切な土壌作り

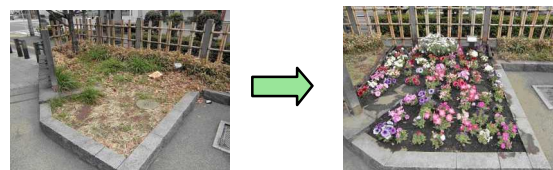


土壌の熟成スペースを京陽公園に設置し、生ごみ処理機で処理した生ごみ再生土壌づくりをしています。

## みどりと花のボランティアとして

環境記者の小野さんは、聖蹟公園内の花壇においてみどりと花のボランティアのチームとして参加しています。季節に応じて年4回の花の植替えと、適宜水撒きをしながら花壇を管理し、公園の清掃美化活動をしていくそうです。今回の活動内容は次の通りでしたがきれいになりました。

花同士の間隔を10cm程度にして植え、植えた後は花屋さんに指導していただき水撒きをしました。大量の水を撒いたことに驚いたとのことでした。



## みどりと花のボランティア募集中

緑ゆたかな花のあるまちづくりを進めるために、品川区立公園・児童遊園・道路などの維持管理や花壇のお手入れなどをしていただける方を募集しています。また、区有施設内の花壇管理をしていただける方も対象となります。是非ご応募ください。必要な道具、材料の一部を区が提供します。詳細は水とみどりの課まで（TEL：03-5742-6799）

## 品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

### 「よく分かる『食料問題にも環境問題がかかわっている話』」

世界の人口増加や経済成長による食料生産と供給の問題は、地球温暖化や環境汚染などの一因にもなっています。

日時 / 7月19日(祝) 14時～16時

対象 / 一般

### 「トラと生きる・ネコと暮らす～街・動物園から野生まで」

動物園の実例から、ネコ類を中心に環境に適応した分化や人間の活動が動物に及ぼす影響についての話です。

日時 / 8月26日(木) 14時～16時

対象 / 一般（親子での参加歓迎）

### 夏休み子ども環境講座

#### 「自然たいけん隊」

自然とのふれ合いから生きものについて楽しみながら学びます。

日時 / 7月27日, 28日, 31日

(13時30分～15時30分)

#### 「キッチンからはじめるエコロジー」

身近な食を通して、楽しみながら環境を考えます。

買物・調理・片付けなどすべての内容で環境に配慮した料理を作りながら環境について学びます。

日時 / 8月9, 10, 11日(14時～16時)

共通

対象 / 小学生

(3年生以下は保護者同伴)

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」や「品川区環境情報活動センター」のホームページに後日掲載します。

### しながわECOだより2010年度Vol.1

発行：品川区都市環境事業部

編集：特定非営利活動法人 エコタウンしながわ

発行日：平成22年6月25日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています

見上げた空がクリーンであるよう 今できる一粒の種をまこう



品川区環境情報活動センターだより

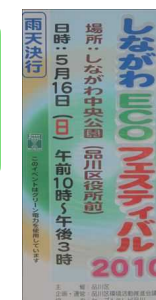
2010年度 Vol.1

## 自然・環境と花・草・木

わたしたちは元気で明るく楽しい生活をするとともに、自然や環境を大切にしようとして心がけています。春になれば陽射しは強くなり、花が咲き木々が芽吹きますが、これは当たり前のことでしょうか。自然があり、環境が守られているからこそ花は美しさを見せ、草木の緑が鮮やかになるのです。植物はそんな自然と密接に関係し、わたしたちの生活に潤いを与えてくれています。

## ECOフェスティバル 2010

5月16日(日) まぶしいほどの日差しの中、しながわ中央公園で「しながわECOフェスティバル2010」が華やかに開催されました。



濱野区長の挨拶の後、資源リサイクル活動等を推進してきた25団体に対し感謝状と記念品が贈呈されました。

### ステージアトラクション

和太鼓演奏(大井権現太鼓保存会)、環境「ほっ」とバラエティ(HORIPRO)、創作竹楽器演奏(東京楽竹団)、突撃!!リサーチ



### ECOフェスティバル2

チャーズ しなココ(ケブ'ルビ'品川)、エコレンジャーショー(朋優学院高等学校)、Love&Peace(イベント結果報告・83運動みんなで歌おう)など、各種アトラクションが観客の盛んな喝采を浴びていました。

### 手作り環境工作教室

ペットボトルを利用したエコ花ポット作り、アクリル毛糸でエコたわし作り、ケナフで紙作りなど環境を考えながら楽しい工作が体験できました。



### 模擬店

品川区商店街連合会を中心に食の店が出店しました。焼きそば、カルピ井、カレー、わた菓子、飲物、かき氷などが販売され、昼食時には長蛇の列ができるほどの盛況振りでした。このイベントではマイ箸運動を推進しており会場内では国産間伐材・端材からできた割り箸を1膳10円で販売しました。また容器は環境に配慮し、天然葦を使ったバックやトレイを使用しました。



### 山北町、早川町の物産展

品川区と交流のある神奈川県山北町や山梨県早川町の地元で採れた新鮮な野菜や加工品などの物産展が開かれ、多くの人が買い求めていました。



### くらしを守る青空市

品川区消費者団体連絡会による恒例の青空市です。有機・減農薬栽培の野菜と果物の販売があり、人気のため午後の早い時間に売り切れてしまいました。

### ごみ、資源回収

ごみ・資源回収場所では「もやすごみ」「エコ容器」などが、高校生のみなさんの協力を得てきれいに回収されていました。



**エコな乗り物の乗車体験**

環境に優しい乗り物の乗車体験に、みなさん列を作って順番を待っていました。

自転車タクシー：排出ガスゼロの「ペロタクシー」

燃料電池車：水しか排出しない次世代エコカー

ソフトQカー：スピード制限できる電気自動車

電気自動車：環境に優しい電気自動車



**フリーマーケット**

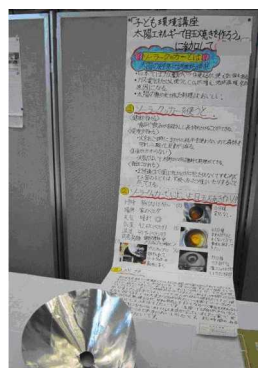
グラウンドの周りではフリーマーケットが開かれ、50店ほどが出店しました。掘り出し物もあり注目を集めていました。



**こども環境作品展**

「子ども環境講座『太陽エネルギーで目玉焼きを作ろう』に参加して」と題して講座に参加してくれたお友だちが受講した後での実験報告を発表してくれました。

その感想として、調理には結構時間がかかり「日本ではいつでもガスが使えるけど、使えない国ではとても大変だと分かりました」、また「早ね早起きして、なるべく電気を使わないようにしたりして、エコ生活をしたいです」と書いてくれました。



**太陽エネルギー見本市 が同時開催されました**

**ソーラー工作教室**

太陽光で動く「ソーラーかめめ」を親子で作りました。

**太陽エネルギーを活用した発電セミナー**

太陽光発電と高効率給湯器を組み合わせることによるメリットなどについて紹介がありました。

(会場：環境情報活動センター)

**各種情報の提供**

太陽光(熱)利用機器システム、住宅版エコポイント、区・都・国の補助制度などの紹介がありました。

(会場：区役所プラッツア)

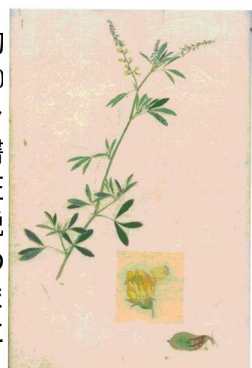


**“シナガワ”の名のついた植物、ご存知ですか？**

品川は奈良・平安時代のころから交通のかなめであり、地名の由来は、品物が川のように行き来する場所であったことからついたといわれています。この地名が頭につく植物があります。

その名は「シナガワハギ」！品川に多く自生していたところから名がついたといえます。シナガワハギは江戸末期、大垣の自然科学者：飯沼慾齋(いひぬまよくさい)(1782—1865)によって書かれた日本初の近代的な植物図鑑『自筆稿本 草木図説』(全20巻：1856 - 1862)に、当初エビラハギとして記載されました。本書には1215種もの草木が毛筆で正確に写生、彩色され、詳細な解説はリンネによる分類法と日本の本草学の知識が用いられています。慾齋没後、明治7(1874)年に『新訂草木図説』でシナガワハギ、別名エビラハギとして登場します。

マメ科で草丈は1メートルほどにもなり、6月頃黄色い小さな花を咲かせます。ユーラシア大陸からの帰化植物といわれています。



『草木図説』  
エビラハギ(シナガワハギ)  
(大垣市立図書館蔵)

帰化植物は日本に来た時期によって 江戸中期までに来たもの、 それ以降のもの大きく二つに分かれます。

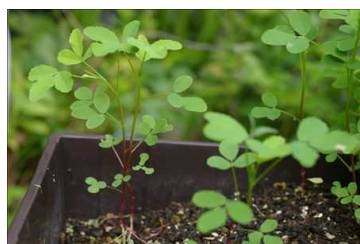
は畑や水田の雑草、は空き地や道端に生育し、どちらも私たちがなじみが多い草たちです。

人や物が集まるそれに伴って生き物も移動してくる 集まったその地で生息する。人が多く集まっていた

品川だからこそ、この植物が存在したといえましょう。もしかしたら、あの坂本龍馬さんも見ていたかもしれません。

シナガワハギは草に匂いがあり、押し葉にすると、「桜餅」のような香りがします。この仲間にはハーブ店で「シロバナシナガワハギ」として売られているものと、外来種として「コシナガワハギ」があります。名前の通り、前者は白い花、後者は草丈60cmと小型です。

(環境カウンセラー 倉田智子氏提供)



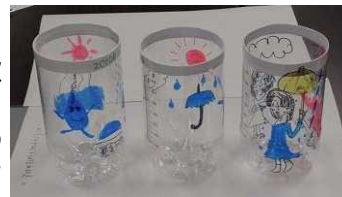
シナガワハギ  
これから陽を浴びて  
黄色の花を咲かせます

**環境学習講座 (於：品川区環境情報活動センター)**

**春休み子ども環境学習講座  
気象予報士から学ぼう～天気不思議と環境  
3月20,21,22日 (講師：NPO法人気象キャスターネットワーク)**

(1)「雨の不思議と大雨から身を守る方法～雨量計を作ろう」  
ペットボトルを使って雲を作る実験や雨量計作りに挑戦しました。

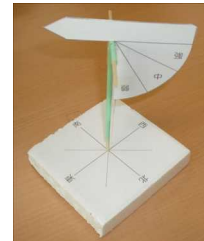
「雨量計を作ろう」では、ペットボトル(500ml炭酸飲料用)の上半分を切りとったものに1～6cmの目盛りのついたシールを貼り付けて雨量計の完成です。



大雨などの被害を耳にすることがよくありますが、天気予報を聞き、大雨の時には危険な場所には近づかないようにしましょう。

(2)「太陽と風のエネルギーを利用しよう～風速計を作ろう」

実験ではうちわで風力発電に挑戦です。明りをともしたりLEDを鳴らすことはできましたが、扇



いとお友だちは懸命の表情でした。(上の写真はうちわで扇いでLEDを回しています)

風向風速計作りでは紙、ストロー、竹ひごと土台の発泡スチロールを使用しました。尖った矢印の方角から風が吹いていることとなります。

(3)「不思議な天気いろいろ～夕焼け・虹・雷を作ろう」  
雷を起こす実験、虹や夕焼けを見る実験を行い、さらに虹の見える万華鏡作りにも挑戦しました。

黒い画用紙にアルミホイルで絵を描いたものに電気を流すと一瞬雷が発生しました。雷が起こす集中豪雨は一瞬で川が溢れることがあります。雷の音が聞こえてきたら、雨が降っていないとでもすぐ避難しましょう。



**さき布からぞうりを作ろう**

4月25、29日 (ぞうり研究家 宮嶋清司氏)

家庭にある余り布や、もう着なくなった衣類を裂いてオリジナルのぞうりを作りました。限りある資源をリサイクルすることで、物を大切に作る心や、創作する楽しさを多くの方々へ伝えていきたいと思います。

まずは各自用意した1.5m程の布を、製作台にセットした荷造り用のヒモにつま先から編みこんでいきます。続いて鼻緒と前緒作りです。



鼻緒は鼻緒用の布にヒモを入れて両サイドから強く強く擦(よ)っていきます。2日間、合わせて5時間の講座でしたが、ほとんどの方が一足仕上げられました。

捨ててしまいがちな古布もこんな風に活用できます。身近な伝統技術を多くの方に学んでもらい、リサイクルの輪を広げていけたらいいですね。

**親子で楽しみながら学ぶエコゲーム**

5月2日 (環境教育NPO 加宮利行氏)

「(すごろく式)エコスタイルゲーム」と「省エネカードゲーム」で、省エネや省資源について楽しみながら学ぶことができました。

「エコスタイルゲーム」では、すごろくと同じようにサイコロを振り、止まったマス目に書かれた省エネや省資源メモを読み、指示に従いながらゴールを目指しました。



「省エネカードゲーム」は家電機器の省エネ法と電気使用量の節約金額を学ぶことができるゲームです。裏向けに置いたカードの中から2枚をめくり、節約金額の大きさを知るゲームです。

楽しみながら、知らず知らずのうちに省エネや省資源について勉強しました。今日プレイしたゲームはおみやげとしてお持ち帰りいただきましたので、ご家族で楽しんでいただいたことと思います。

**極寒の地に生きるシロクマと温暖化**

5月23日 (講師：自然写真家 丹葉暁弥氏)

講師が毎年撮影に訪れるカナダ北部の街チャーチル。そこに生息するシロクマの写真を見ながら、シロクマと温暖化の関係について話を聴きました。今回は写真だけでなく動画でシロクマの様子を見ることができ、シロクマ好きの人には大変嬉しい講座となりました。

シロクマはアザラシ1頭で半年は生きのびられるため、夏は基本的に絶食をしています。つまり結氷寸前はお腹がペコペコなのです。温暖化により海が凍るのが遅くなると食事ができる時期も遅くなり、体力がどんどん落ちてしまいます。一方、エサを求めて街に近づき、ごみをあさるシロクマを捕獲し、生息地へ戻すことも行われています。

チャーチルのあるハドソン湾西部に住むシロクマたちは、このままだとあと30年くらいでいなくなってしまうかもしれません。かわいいシロクマを守るためにも、身近なことから環境にやさしい行動をするように心掛けましょう。

